

一般質問（要旨） 「市政のここを問う」



福生市議会HP
(通告一覧へリンクします)

今定例会では、16名の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。要旨は1～2問とし掲載しました。会議録は2月中旬頃に市役所情報コーナー及び図書館に配置します。また、福生市ホームページにも掲載しますので、ぜひご覧ください。なお、一般質問通告一覧は、福生市議会ホームページに掲載しています。

令和4年度予算編成について



正和会
武藤 政義 議員



質問 新型コロナウイルス感染症第6波の懸念など先の読めない状況だが、令和4年度の予算編成について、考え方や重点施策を伺う。

市長 引き続き厳しい予算編成となるため、中長期的な視点に立ち、コスト意識を持って事業を見直すことが必要。市民サービスの質を落とさず、持続可能な財政運営を進める。主な重点施策として、新型コロナウ

イルス感染症対策では3回目のワクチン接種を円滑に進め、新しい生活様式に対応した手続きのオンライン化やキャッシュレス化を推進。子育て支援施策では福生本町保育園の建て替え及び認定こども園への移行、学校内学童クラブの整備を、ハード事業では東福生駅自由通路及び福生第二号踏切の整備を進める。感染症の見通しは難しいが、市民を守り魅

力あるまちづくりに全力で取り組む。**教育長** 学校教育ではICT教育の推進、幼保小中連携の推進、教育相談事業の充実等で誰一人取り残さず個別最適化された学びの実現を目指す。社会教育では中央図書館の改良やふっさっ子の広場と学童クラブとの一体化の拡充、スポーツ環境の充実、市民文化祭の3年ぶりの開催等、生涯学習の推進に努める。



▲歩道の整備を進める福生第二号踏切

東福生駅周辺地区の整備について



正和会
山崎 貴裕 議員



質問 東福生駅のバリアフリー整備事業について詳細を伺う。

市長 東福生駅は国の方針において、令和2年度までに原則としてエレベーター等を整備しなければならない駅となったことから、JR東日本八王子支社と平成30年度までに9回の協議を行い、令和2年度に整備に向け調査・検討を行う協定を締結、事業進捗に向け協議を重ねた。令和

3年度には調査内容を踏まえ、整備手法や内容、費用負担区分等を改めて協議。令和4年度からは事業推進に向け具体的な作業に取り組む。

質問 バリアフリー法の適用要件となったのはいつか。また、駅改良事業に踏み切ったきっかけを伺う。

都市建設部長 平成23年度に改正された国の方針で、1日の平均利用者数が3000人以上の駅はバリアフ

リ化することとされており、東福生駅は平成25年度に3000人を超えたため適用となった。きっかけについては、JR東日本との協議開始当初は既存の自由通路にエレベーター等を設置する工法しか示されなかったことから懸念事項が多く、協議が難航した。しかし、令和2年度の調査で新たな案が示されたことで懸念事項がなくなり、計画を進める判断をした。



▲バリアフリー化される東福生駅

小中一貫校等今後の本市における教育構想について



正和会
佐藤 弘治 議員



質問 小・中学校の統合・再配置を視野に入れた教育構想のビジョンを早い段階で示す必要がある。小中一貫校等、今後の教育構想について伺う。

教育長 既に小中一貫教育を実践する自治体では高い教育効果が得られており、導入に向けて積極的に検討すべき施策と考える。また、小学校7校、中学校3校という規模・配

置の検討と学区の在り方、35人学級の段階的实施など学校の枠組みの問題や、コミュニティ・スクール委員会のより望ましい在り方、不登校児童・生徒対策など、喫緊の課題がある。これらを専門的、横断的に協議する場として「令和における福生市立学校の在り方検討委員会(仮称)」を令和4年度に立ち上げ、この委員会で本市における教育構想につ

いて検討していく。**質問** 小中一貫校では、組織としてどのようなメリットがあるか伺う。**教育部参事** 最大のメリットは一貫校の教員全員に小・中学校の兼務発令がかかることである。教員の相互交流が進み、地域の子どもを小・中学校の教員が一体となって指導でき、学力向上や不登校対策等、本市の教育課題の解決が進むと考える。



▲小・中学生が合同で実施した朝の挨拶運動(三中学校)

本市のデジタル化への取組について



正和会
幡垣 正生 議員



質問 本市におけるデジタル化の取り組みについて伺う。

市長 令和2年7月に国の計画が刷新され、コロナ禍での社会生活の変容に伴い、行政手続のオンライン化や押印手続の見直し等の具体的方策が示され、市でも更なるデジタル化に向けた検討を開始した。同年12月に総務省が自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進

計画を策定し、デジタル化に合わせた業務プロセスの変革を行い、効率化による人的資源を行政サービス向上へつなげるもので、市は福生市DX推進プランの策定に向けて準備を進めている。

デジタル化の今後の推進について

質問 デジタル機器への使用に抵抗感がある高齢者への対応など課題もあるが、今後の推進について伺う。

市長 DXとはデジタル技術で人々の生活をより良く変革することで、今後は具体的な取り組みを選定し、福生市DX推進プランを進める。年齢、障害の有無、性別、経済的理由等に関わらず、可能な限り誰も取り残さない形でデジタル化の恩恵を広く行き渡らせ、市民目線でサービス向上に資する取り組みを積極的に実施していく。



▲デジタルデバイス対策の例「高齢者スマートフォン普及啓発事業」